

No1

Campus[®]

KOKUYO NOTEBOOK

Kokuyo Co., Ltd. manufactured this campus note book, using carefully selected writing paper, which is suitable for writing in pen as well as in pencil.



敬学会研究

指導 鈴木生子先生

地方の家と

うつりかわり

敬学会賞第三十四回入選作品



四年三組 後藤貴子

目次

目次	P -1-
研究の動機	P -2-
研究の計画(方法)	P -3-
研究の結果	
大昔の家	P -4- ~
貴族の世の中の家	P -12- ~
武士の世の中の家	P -14- ~
江戸時代の家	P -17- ~
明治時代の家	P -19- ~
大正時代の家	P -22- ~
昭和の家	P -23- ~
その他	P -26- ~
研究のまとめ(わがたごと)	P -31- ~
研究の反省	P -32- ~
参考資料と協力した人	P -34- ~

研究の動機

家は、地方などの気温によって、形や造りがちがうことが多いことを本やテレビで知りました。

材料も、昔はきっと今の私たちが考えられないような昔のくらしにつごうのいいどうぐをくふうしていたのか、もしれない調べてみたいと思い、研究してみることになりました。

研究の計画(方法)

研究している時代を、中心として調べる。家が変わっていく様子をくわしく調べる。資料のない物は、本を参考とし、ほかのものは、実物を見て、図を書いたり、写真をとったりする。今と昔のくらし、家の変わり方のことを表現するために、年表なども書きこむ。

結果

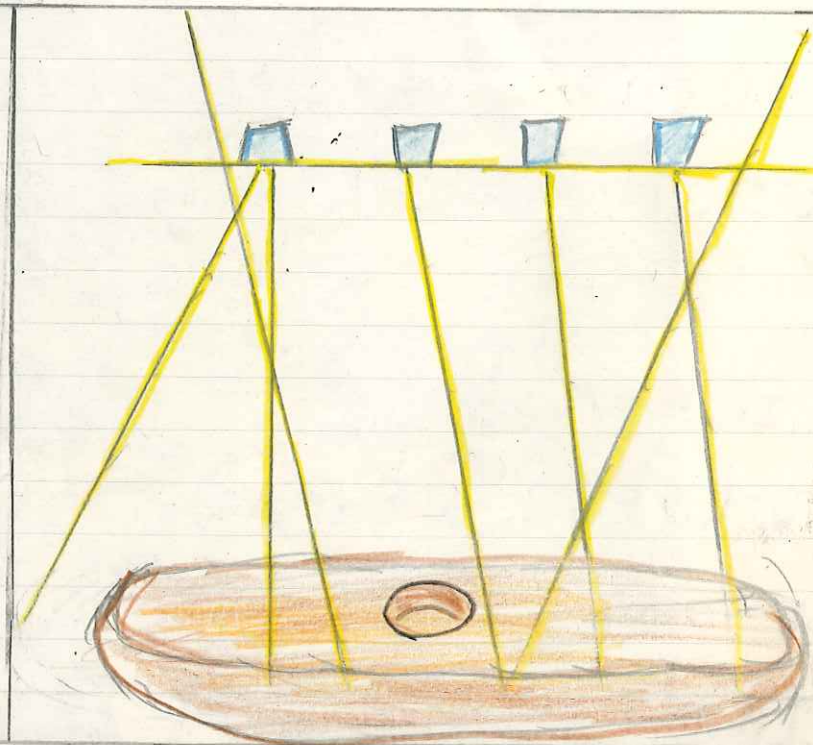
① 大昔の家 (かんたんな家の造り)

人間は始め雨や風をさけるため、けもののようなあがない物からさけるために、岩のほらあななどに住むようになってきました。そのころは、自分で家の造れそうな良い場所をみつけて、自分でくふうし、考えて造られていました。どうぐは今とはちがって、木を切ってきて、ほし草の屋根などをかぶせていました。大昔の人々は、身じかな物を利用(くふう)して、かんたんにできる家を造っていたのです。

アフリカの ゴンゴ盆地では、みつ林におおわれ昼間でも、うすぐらいところです。ゴンゴ盆地の、みつ林地帯の家は、木の葉でできていて、今で言うと、かべの部分は、木の皮でできていました。この大昔の中でも、あなから、かんたんな家になったのも大昔の人々のおかげです。

1 大昔の家

かんたんな家造り
右の絵は、地面を深さ10数センチメートルのだんけんけい にほりさげ、まわりに柱をたて、屋根をつくりました。



日向洞穴

高島町にある。8000年前の洞窟住居跡と考えられ、弥生時代にかけての遺物も発見され、長期間かけて使用されていた。



南面して日当りがよく、周囲が小高い山に囲まれていた。



復原した
登呂の家

2. 農民の家 (静岡県)

静岡県の登呂で、発掘された、いまから約1800年前の農民の家をそのころと同じ形に復原したものです。農民は、このような家へ柱んでいたのです。

調べてみると、かりや、漁をしていたころの人々が残したくらしのあととは、様子とは、たいへんちがっていました。

米作りの村 ここでは、米作りが人々のたいせつ仕事のひとつだったことがわかります。人々は、この村にたてあな式のすまいを作り、住みついて暮す^たようになりました。

もみは、きねを使ってうすでつき、もみがらをのぞいていました。食べ物、木の器にもり、木のさじで、食べていたようです。

登呂の村では、すまいよりも小さな建物のあとが、二つほど発見されました。ねずみ返しや、はしごの一部も残

っていました。ここには人々が共同で使う、倉庫が
建っていたと考えられます。つみ

つみとったいねのほは、いっしょにここへしまっておき、
必要な時とり出して食べたり、あるいは、来年まく
たねにしたかもしれません。

高い床は、しっけを防ぐくふうだったのかもしれませ
ん。



4. 江俣 史跡「嶋遺跡」



昭和36年～39年
までの発掘調査で
高床式^{ゆか}の倉庫^{ぐら}と、
住居^{すま}が、かくにんさ
れた。年代は7～8
世紀ごろと思われ
ています。

古代東北地方の、
農村を知る貴重^{おも}
な遺跡です。



その北

5. 日向洞窟

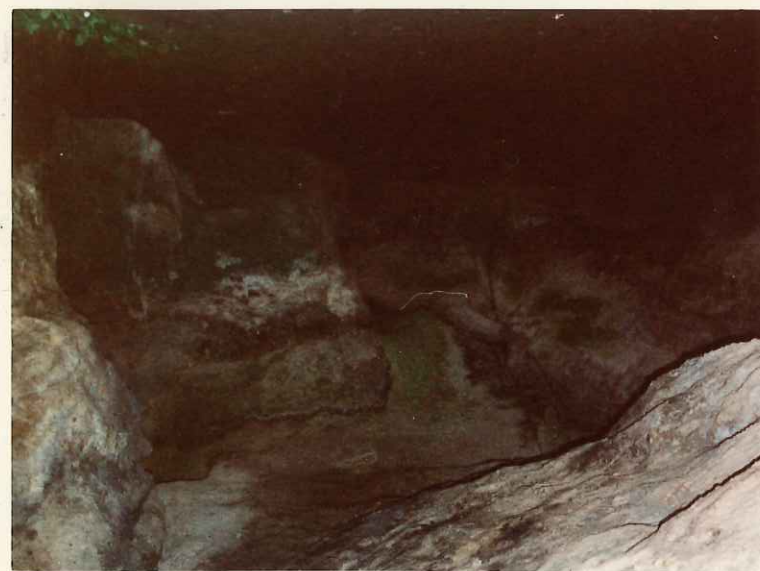
初めて、家のできたのは、洞窟のような物からです。山形では
今でも残っているのは東置賜高畠町の日向洞窟なのです。



観察1. 高畠町の山の洞窟に人間が住んでいま
した。南面し、日当りがよく、食べ物の木の实やサ
モシの果がいたのだと考えられます。

観察2. 洞窟に戸がないので寒くって、病気にかか

5. 日向洞窟

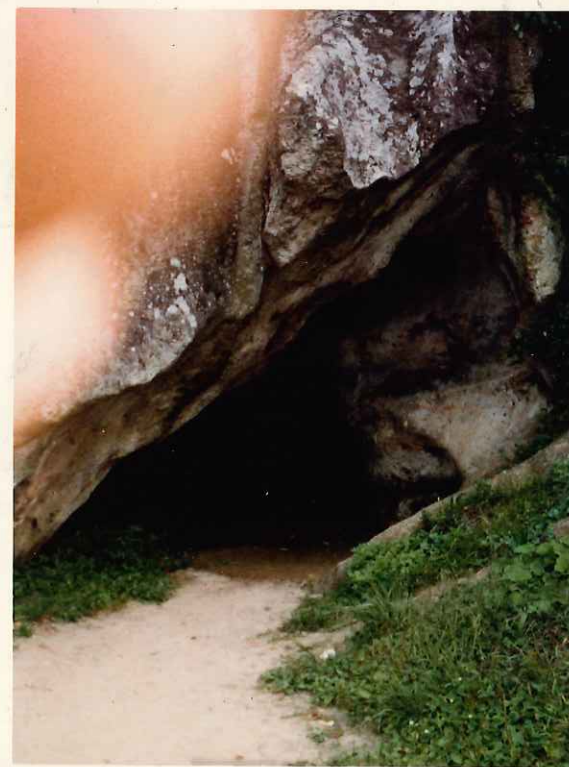


りやすく動物のように、
あまり長いきできな
かったと考えられま
す。

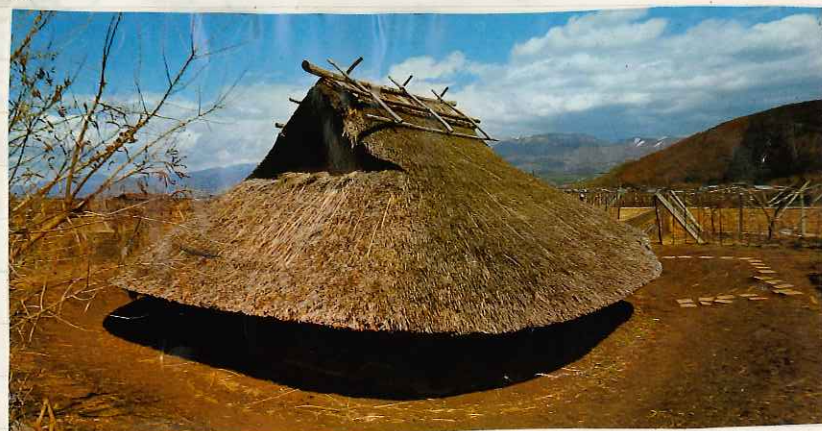
観察3. 大昔の人々
は山の食べ物が

へってくと、べつの洞
窟へひっこすことを知
りました。

観察4. 今の実物の
どうくつは小さいけど雨
などでけずられたのでは
ないかと考えられます。



6. 貴族の世の中



日本では、中国から、すすんだ文化が入ると、家を作る技術もすすみかわらや土、かべも使われてくるようになってきました。米作りも、入ってほら穴の時のように、いどうしなくって、自分の家の周りで食べ物ができるとなりました。

障子や、ふすまをはめて、家のしきりにしたり、たたみをしくようになったのは、武

士の世の中になってからなのです。このころでも、ほとんどの人々は、草ぶき屋根に、板かべ、ゆかのない家に住んでいました。このころの家は、屋根を大きくして住んでいました。しかし、考えもすすんで、寒さ、暑さ、風の入りぐあいなども考えた家も少し出てきました。

しかしまだふべんなところがたくさんあります。けれどこれまでに、かやぶきや、板ぶきだった宮殿の屋根にやがて、かわらが用意されるようになったのも大陸から仏教の伝来とともに、これらの建ちく技術が入ってきたからなのです。

人々のくらしは、貴族たちとは、くらべものにならないうものでした。いりもやの屋根の家は、付属やらしが柱は、掘立て、内部の床はおそらく土座であつと考えられています。

7. 武士の世の中



7. 武士の世の中



この写真は、上山市の武家やしきです。

観察1. 武士の世の中のやしきは、少しでも残っているけど、そのころのふつうの民家は残っていない。残っていた少しの家は、きちょうなものだらう。

観察2. げんかんは、間からまっすぐの所にあるのではないだろうか。

観察3. 実物でなく、本でみる武士のころの民家は、うすい

わら屋根の上に、大きな石をならべて、やねが風で飛ばされないようにしていた様子でした。

観察4 本から考えられるまどは、わらとわらとの間に、少しすきまを作って空気を 入れて、まどの変りにしていました。

観察5 町の一軒一軒が少さくこれがおびのように連続していて、やねを、板がきかすぎかわでふきはらははりたてであります。

武士の世の中の人々の家

1. 家の造り

○しっすで板の間である。

○家の周りはへいやほりで囲んである。

周

8. 江戸時代の家

やがでくらしも、今にだんだんにてきました。江戸時代にもなると、ふつうの人々でも、今の各地にも残っているようなりっぱな家になってきています。小さなだんななども考えられて、少しずつ利用する家も出てきました。屋根の形材料などもいろいろと考えられて、屋根の上にかわらをのせて、白かべも作るようになりました。しかし、こういう家には、位の高く、えらい人ばかりがすんでいました。



7 江戸時代の家



この家は江戸時代(18世紀)ごろの古い家です。

観察1. 家の周りは草がいっぱい茂っている。

観察2. 家の屋根の上に芽が出てきている。

観察3. ガラスまどの代わりに、障子をはめていました。

観察4. この家はとつてもしっそに見える。

8 明治時代の家

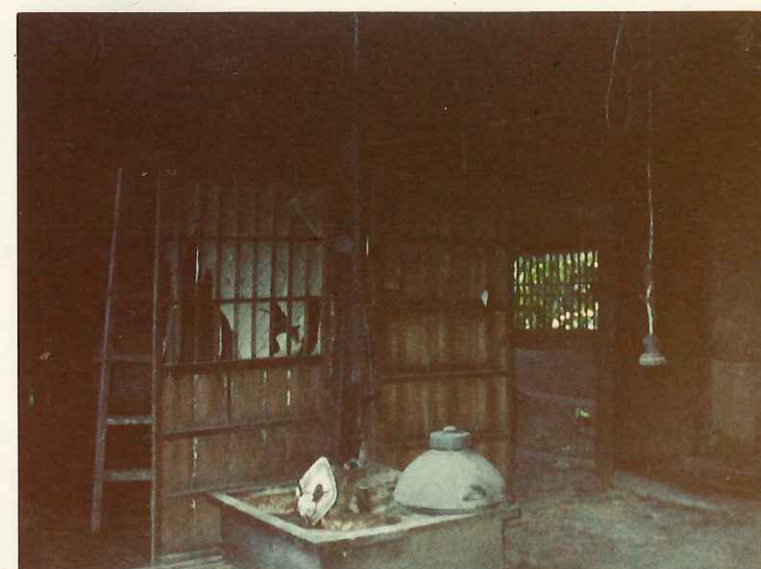
明治時代にもなると、かべ、ゆか、障子などもりっぱにできてきました。今でも、ところどころで見かけるおくらなども作られてきました。だんだん家のたて方も変わってきていることがよくわかります。初めのころは、わら屋根だったのに今はおくらの家までも出ているように、ずいぶん発達してきています。どうして、おくらの家がへってきたのでしょうか。発達するとこわしてしまうのでしょうか。今おくらの中でくらしている人がいるのでしょうか。

いないといっていいでしょう。このことから、くらしや建ちく方法や材料が変わってきていることをしめしているのです。

8. 明治時代の家



8. 明治時代の家



左上の写真……山形市江俣

左下の写真……山形市江俣

上の写真……山形市陣場

観察1. となりの家とのあいだがすくはなれている。

観察2. 自分の家の周りに、いろいろなものがうえてある。

9. 大正時代の家



このころも、せい
糸やぼうせきのエ
場がたくさんあった
のでかいこをかう
ためにくふうした
家や、いろいろをつか
っていたのでや

ねに、けむりの出
すところがあるい
えが多かった。

大正は、15年しか
なかったので明治
とかわらない。



10. 昭和時代の家(今)

今私たちが住んでいる家は、とってもせつびがととのって
います。まども、サッシかべの色もとってもきれいです。屋根は、ト
タンでかんじょうにできています。ふべんなところがないといっ
ていいでしょう。

私たちは長い間 木で家を作ってきました。ところが今は
鉄、コンクリート、ブロックなどの材料もとりいれられて
います。また、プレハブ住宅は、くみだて住宅といわれ、屋根
かべゆかなどは工場で作リ、へやとへやとを組み合わ
せて家を作る方法もあります。

10. 昭和時代の家々

観察1
屋根が

トタンにな
った。

観察2
ガラスサ

ッシのま
どになっ
た。

観察3
屋根に
も色が
ついた。



観察4
ブロックベ
いなどが
つくように
なった。

観察5
2階まで
あつて階
だんがづ
いている。

観察6
このくらい
の時代に

10. 昭和時代の家々

なると、同
じ家でも
種類が
ちがって
くる。

観察7



昔とちが
って、たくさ
んすき間の
ないくらい
家がつな
がっている

左上の写真.....東村山郡山辺町
左下の写真.....東村山郡山辺町
上の写真.....大わらび付近

とくに変わったこと

○ 屋根

○ ガラス、サッシ

11. その他

(1) 年表

	約400年	約500年	約500年
大昔の家	貴族の家	武士の家	
○ほらあな	○米作り	○しっすで	
○かんたん家	○すすんだ	板の間に	
○登呂の遺	きじゆ	ある。	
跡発見	○わらがき	○屋根が	
○かりをしていた	○障子	飛はされ	
○日向洞穴	○ふすま	ないよう	
	江俣 ↑	大きな石を あける。	



	約300年	15年	80年
江戸の家	明治の家	大正の家	昭和の家
○かわら	○かいこ		○トタン
○白かべ	○かわら		○色かべ
○障子	○わら		○ガラス
○小さいだ	○かべ		○アルミ
ん	○まど		○いろんな いえ

山辺町 ←



11. その地

① 気候にそなえた家

各地に残る家を調べて見ると、家の形や、しくみが、かなりちがっていることがわかります。それは、自然のさいがい、たとえば、大雨や台風などからわたしたちを守るためや、その土地の地形、気候、くらしに合わせて、いろいろとくふうされているからです。

自然のさいがいと同じように、わたしたちの生活をおびやかすのは、火事です。むかしは火事になると、人の力で水をかけて、^けけるしか方法がなかったのです。火事がひちがるのをふせぐことを考えました。それで、たいせつなものをしまっておく、くらしと同ような家をつくりました。白かべをたくさんつけたまどの、ちいさい家です。

11. その他

① 気候にそなえた家

〇 台風にそなえて作られた家。(沖縄県竹富島)

家を、正方形にかたちと作り、強い風にあきとばされないように、かわらをしきいできとめてあります。家の周りを石がきと木でかこみます。木は強い風と日ざしをさえぎるのに役立ちます。

〇 雪にそなえた家。

雪がのき下までつもるので、てんじょうの高い二階建ての家を作りました。雪の重みに負けないように、太い柱やはりを^使い、雪が急に落ちないように、屋根のかたむきをゆるやかにして、雪どめをつけています。

〇 水にそなえた家。(濃尾平野南部)(水屋)

家を、田畑より、いちたん高くつくり、さらにたかい土台をきずいて水屋というひねり用の小屋もつくりました。

11. その他

① 気候にそなえた家

○強い風にそなえた家。(富山県礪波平野)

家の周りにスギの木をうえて、冬の強い季節風をかき止めた。このよ^{うな}森を屋しき森といいます。

○火事にそなえた家(埼玉県川越市)

おくらのかべは、熱をつたえに行くので、火事のひろがるのをふせぎます。

③ 家造りの順番

1. きそづくり

2. むねあげ

3. 屋根ふき

4. せつびとりつけ

5. 内そう工事

6. 建具はめこみ

しあげ

11. その他

② 世界の家

日本ではそのほとんどを木でつくりました。それは日本には森林が、おおかつたこととし気のおおい日本の気候には木がもっともてきしていたからです。

しかし世界には木のほかに、石、レンガ、土などいろいろな材料をつかった家もあります。それらの家も、土地の気候やくらしにあわせ、もっとも手の入りやすい材料でつくっています。

○アシでつくった家(イラク南部)

雨がふり続くときにはいちめん水びだしになるので舟のような水につく家に住んでいます。

○土でつくったアフガニスタンの家。

○ヤナギの枝とファルトで組^あめたモンゴルのパオ

○暑くて雨の多いニギニアなどでつくられる木の上の家。

○エスキモーの氷でつくった家。(イグルー)

12. 研究のまとめ(わかったこと)

米作りがおこなわれるようになったので、1かしの場所に生活できるようになったことがわかった。

人間は寒さや暑さにたいして、くふうして家を作っていることがわかった。

日本の中でも、地方によっていろいろなたて方のくふうをしていることがわかった。

最近ではせまい土地に、高いたてもののアパートやマンションをたてて、人がたくさん住めるようになったことがわかった。

家の形やしくみは、文化の発達や暮らしなどによって、ずいぶんかわってきていることがわかった。

どんな家でも、そこでくらす人々が、なかよく健康で明るい毎日をすごすのにたいせつな場所なことがわかった。

13. 研究の反省

研究を進める順番をまよってしまったので悪かった。山形の家をもっとくわしく見てきたかった。ほかのところにも行きたかった。

し料になる本をもっと読んでもっとたくさん調べたかった。

絵をもっとたくさんいれればよかった。

写真の家の名前をかけばよかったのではないかな。日向洞窟へ行ってよかった。

絵のかわりに実物を観察して、真写をたくさんとったのでよかった。

観察してきたこともノートに少しまとめておいたのでよかった。

14. 参考資料と協力した人

参考資料

家のはなし、山形市のれき史、日本の美術、東北地方
の民家、民家、六年の社会上下、日本地理、(四)社会

協力した人

母、兄